

瑞穂町の景観モニュメント



②ホンダタヌキ



①ニホンオオカミ



⑪カワセミ



⑩平和祈念碑



③蛇喰い次右衛門



④天空



ジャンボ『ボケ』



⑤馬の水飲み



⑥時計台



⑦火の見櫓



⑨ 狭山谷の天狗



⑧村山土佐守



⑧
玉林寺



平成29年3月発行

フリップメントニコニコ景観町穂瑞

発行：瑞穂町都市整備部都市計画課

電話: 042-557-0599

<http://www.town.mizuho.tokyo.jp/>



あすは 4/5 水曜日 4/5 水曜日 4/5 水曜日



MIZUHO



瑞穂町

みらいに
ずっと
ほごれるまじ

お塩こしょう



景観モニュメントについて

瑞穂町では、「まちへの愛着とこころの潤いづくり」を基本方針として、地域に伝わる民俗や伝承、また、地域の自然などを題材にした景観モニュメントの設置をすすめています。

これは、多くの人が語り継ぎ、紡いできた伝承を後世に伝えるとともに、今を生きる人々の営み、思いを形にしたモニュメントを結び、潤いあふれる都市景観を築くことを目的としています。

景観モニュメントとは、「地域の住民やまちを訪れた人々がまちを知り、まちを愛する心を培うことのできる碑や像、塔」のことであり、新たな人の交流を生む景観スポットとして位置づけられています。



むらやまとさのかみよしみつ
村山土佐守義光像
(玉林寺公園)
平成 24 年度設置

村山土佐守義光は、平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて、武蔵国を中心として下野・上野・相模といった近隣諸国にまで勢力を伸ばしていた武蔵七党という武士集団のうちの村山党に属する人物と伝えられています。

義光は、中世豪族としての村山氏最後の人物で、殿ヶ谷に居館を構えていたと伝えられています。その実像に関する資料は残っていませんが、福正寺観音菩薩像や阿豆佐味天神社社殿の再建を行ったなど、信心堅固の武士として、村山郷の人々の伝承の人物となり、後世に言い伝えられてきました。



ニホンオオカミ像
(「けやき館」敷地)
平成 26 年度設置

ニホンオオカミは農作物に被害を及ぼす鹿や猪などを退治してくれるありがたい動物で、農民の守り神として、信仰の対象とされてきました。江戸末期に石畑の畑(狭山丘陵のふもと)に潜んでいたニホンオオカミを村人が捕えたという話があります。その時の頭蓋骨等が代々受け継がれ、今も所蔵されています。特に骨は、「キツネつき(心の病の一種)」という病気に効能があると言われ、お祓い(はら)い(良くない事を振り払う行為)の道具として使用されたようです。

この像は、それらを参考にして再現しました。



カワセミ像
(中宿橋東側ポケットパーク)
平成 28 年度設置

カワセミは、美しい翡翠色(ひすい)の姿から「飛ぶ宝石」などと例えられます。水質の良い水辺に棲み、長いクチバシで水中の魚を捕まえて食べます。

残堀川の整備が進むにつれ、水質が改善すると小魚も多くなり、それをえさとするカワセミの姿も見られるようになりました。護岸工事の際に、カワセミが繁殖するための営巣ブロックを二箇所を設置したところ、住宅地にもかかわらず、毎年のように営巣し、多くの雛が巣立っています。

都市と自然が調和するシンボルとして、地域の人々に見守られ、後世に豊かな自然環境を残すことを願い、このカワセミ像を設置しました。



じゃっく じえもん
蛇喰い次右衛門像
(狭山池公園)
平成 24 年度設置

炎暑のある日、次右衛門(はこ)が宮の池(狭山池)で水浴びをしていると、小さな蛇が絡みついてきました。次右衛門は、その蛇をつかみ、噛み付きました。途端に空は大荒れとなり、小さな蛇はたちまち大蛇と化し、傷口から流れる血で池の水は真っ赤となりました。その血は七日七夜流れ続け、やがて池の水は涸れ、18町歩(17.8ha)もあった池は小さな池となりました。

そのときの水の流れによってできた川が、蛇に掘られた川「蛇堀川」と呼ばれるようになり、後に残堀川となったとの伝承があります。



馬の水飲み像
(箱根ヶ崎駅東口駅前広場)
平成 25 年度設置

箱根ヶ崎村は、日光街道と青梅街道が交差していたので、荷物の載せかえや旅人を中継する宿場の役割を担っていました。

特に近世の宿駅では、荷物や人の輸送が重要な任務でした。輸送する荷物は、人の背や馬の背によって宿から宿へと継送されたのです。その任務を滞りなく行うためには、常に人足や馬の準備を整えておくことが必要でした。そのため宿には、当然「馬の水飲み場」が備え付けられていました。

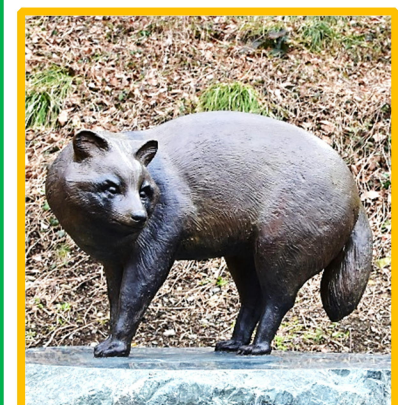
それにちなんで、駅前広場の整備に併せて駅東口広場に設置しました。



さやまだに てんぐ
狭山谷の天狗像
(狭山谷公園)
平成 27 年度設置

昔むかし、石畑(いしばたけ)に大層豪傑な婿殿がいました。ある日、うっそうとした狭山谷へ山仕事に出かけたところ、天狗達が話し合っていました。婿殿はズカズカと近づいて行き、「わしも仲間に入れてくれ」といいました。しかし天狗は、「これは天狗だけの話じゃ」と言って断りました。すると突然、婿殿は一人の天狗から鼻をもぎ取り、自分の鼻にくっつけて、「これでわしも天狗だ」と言い、再度仲間に入れてもらうよう頼んでみましたが仲間に入れてもらえませんでした。鼻を取られた天狗は「鼻がないと自分の住む世界に戻れなくなる、返してくれ」と訴えましたが、婿殿はいいお土産が出来たと持ち帰り、家宝にしたそう。

この像は、鼻を取られ、自分の住む世界へ帰ることができず、狭山谷で町の発展する様子を眺めている天狗の姿を再現しました。



ホンドタヌキ像
(さやま花多来里の郷)
平成 28 年度設置

タヌキは昔話などに登場し、知らない人はいないと思います。胴が長く脚の短い愛嬌のある姿や、驚いて気絶してしまう臆病な性格からも、タヌキに例える言葉が多くあります。

けもの偏に里と表す「狸」は人里に棲む中型の哺乳類で、狭山丘陵を中心に町内全域で生息の記録があります。しかし、身近な動物でありながら、夜行性のため野生の姿を見かけることは稀です。

この地は昔からの自然が残るため、夜に活動するタヌキの姿が調査により確認されていますが、都市化が進むにつれ棲家を追われている動物です。

さやま花多来里の郷では、カタクリをはじめ、この地に生息する動植物の保護に取り組んでいます。里山を代表する動物の象徴として、ホンドタヌキ像をここに設置しました。